

かしこい施肥とは？

芝生管理に施肥はつきものですが、かえって仕事を増やしているかも！？今回は、これからの施肥のポイントをご紹介します。

①よけいな肥料をやらない！

青々とした芝生を実現するためには、施肥は欠かせないものです。しかし、むやみに施肥すればいいというものでもありません。芝生に肥料をやる時は、タイミングと成分と量が重要になってきます。以下に、芝生肥料関係者から聞いたおすすめの施肥方法を紹介합니다。

ノシバやコウライシバなどの暖地型芝草は、春から秋にかけて生育が旺盛になります。まず、春の寒の戻りが過ぎたら、窒素多めで施肥を行います。初夏には、根を張らせるための施肥、夏の生育のピークを過ぎた頃にはリン酸を補給し、夏の疲れをカバーします。秋口の施肥では、窒素・リン酸・カリを十分に与え、晩秋に、翌春必要となる養分を貯蔵させるために、年間窒素施用量の3分の1を与えます。

寒地型芝草は、春と秋に生育のピークがあり、真夏は高温のため活性が落ちます。寒の戻りの前に微量要素を与えますが、このとき、窒素は少なめにするのがポイントです。初夏～秋口の施肥は、暖地型芝草と同様に行い、晩秋には、年間窒素施用量の半分を与えます。

その時期に必要な成分や量を考慮しないで施肥を行うと、芝草の成長をただただ助長させ、刈取り回数を増やすだけになりかねません。刈取り回数・発生材の量が少なくなるように、必

要最低限かつ効果的な施肥ができるよう心がけましょう。

②無機成分が主体の肥料ばかり使用しない！

農業や緑地管理の場面で化学肥料が主流になって久しいですが、近頃ではその弊害がみられるようになってきました。

化学肥料は、主に化学合成により生成された無機態の成分で構成されています。本来、自然界では、排泄物や遺体などの有機物が様々な分解者に分解され、土壌に還り、物質が循環していきます。その過程は複雑で、それに関わる様々な微生物によって土壌付近の豊かな生態系が形作られています。化学肥料ばかり使用すると、土壌内の物質バランスが崩れ、生態系が失われることで、結果的に化学肥料の効きが悪くなり、更に大量の化学肥料が必要に・・・と悪循環が生まれます。肥料に有機質を取り入れ、土壌生態系を維持することが大切です。

③根圏微生物のちからを利用する

植物と土壌内に生息する微生物には、長い時間をかけて様々な共生関係が育まれてきました。

ある菌は、植物から光合成生産物をもらうかわりに、植物にとって必要な養分を土壌中から集めてくる役割を担っているそうです。

現在、こうした菌を利用する研究が行われており、新たな資材として期待されています。

製品紹介

コンブペレット

海藻の主成分、アルギン酸の力で団粒化を促進



- 北欧産の海藻アスコフィルムノドサムを粉末化し、ペレット化した有機肥料です。
- 海藻の主成分であるアルギン酸の土壌水分保持力を高める働きにより、有用微生物の繁殖促進、土壌の団粒化の促進などの効果が得られます。
- 海藻特有の多糖類、ミネラル、ビタミン、アミノ酸など60種類以上の栄養素を含有しています。

- 肥料名称：100%海藻粉砕物
- 成分：窒素 0.8~1.3%
リン酸 0.1~0.2%
加里 2~3%
アルギン酸 22~30% など
- 正味重量：20kg/袋
- 施用目安：50~100g/m²

※ ペレット化前の海藻粉末「アルギンゴールド」も取り扱っております。(25kg/袋)

※ 現在アルギンゴールドの代替品として、「アルガパワー」を取り扱っております。(20kg/袋)

スーパーグリーンフード ペレット

有益微生物の力で地力・肥料効率を向上



- 漢方薬粕、豆腐粕、乳製品粕、ビール粕、みりん粕、烏龍茶粕、コーヒー粕、動物内臓などに魚粉、骨粉、乾血、卵殻を加えて醗酵させた資材です。
- 有益微生物により、土壌に本来の活力を取り戻し、土壌病原菌などの増殖を抑え地力を高めます。
- 微生物が土壌中の未分解有機物や化成肥料、農薬を分解し、植物が吸収しやすい状態にするため、肥料効率がよくなります。

- 肥料名称：高微生物肥料
- 成分：窒素 2.5%
リン酸 2.0%
加里 0.8% など
- 正味重量：20kg/袋
- 施用目安：100~300g/m² (芝生地)
2kg/m² (芝張り前の床土)
10~20% (樹木植栽)

- 袋を開けた際に白く粉を吹いたような状態になっていますが、有益な微生物が生息活動状態で含まれているため、特に問題ありません。

※ 本品はペレット加工品ですが、粉状の「スーパーグリーンフード」もあります。

山海の恵

土壌活力を高める腐植酸・海藻混合資材



- 動植物由来の腐植酸資材に、ミネラル・アミノ酸・ビタミンを含有する海藻粉末※を配合して粒状化しました。
- 1袋(15kg)で堆肥1トン相当の腐植酸効果が得られます。
- 土壌の団粒化を促進し、通気性・通水性を改善するとともに、土壌微生物を増加させ、連作障害を軽減します。
- 陽イオンを保持する力が高く、保肥力が向上します。
- 根の張りを良くし、作物の色・味・貯蔵性などの品質を向上させます。

- 肥料名称：海藻粉末配合腐植酸
- 成分：[腐植酸資材(腐植酸 62%以上)]
窒素 0.77%
リン酸 0.06%
加里 0.08% など
[海藻粉末]
窒素 1.0~1.5%
リン酸 0.02~0.05%
加里 1.0~1.5% など
- 正味重量：15kg/袋
- 施用目安：75~120g/m² (芝生地)

※ 海のはたらき

- 海藻の主成分であるアルギン酸の土壌水分保持力を高める働きにより、有用微生物の繁殖促進、土壌の団粒化の促進などの効果が得られます。
- 海藻特有の多糖類、ミネラル、ビタミン、アミノ酸など60種類以上の栄養素を含有しています。

取扱い・お問合せは—